本居宣長

橋爪 大三郎 評

『本居宣長』
熊野純彦著（作品社・8856円）

西欧哲学を専門の熊野純彦氏が、本居宣長をテーマにする大著を発表した。二部からなる。前半の「外篇 近代の宣長像」では、明治以降の学者・思想家が宣長をどう論じてきたかを概観。後半の「内篇 宣長の全体像」では、宣長の著作のなかへ立ち入った考察を加える。九〇〇頁もの圧倒的な仕事である。

本書を読むうち、巨大ショッピング・モールに迷い込んで、散策しているかのような錯覚に陥る。いっぽうの棟では、賀茂真淵、平田篤胤、和辺熊雄、佐佐木信綱、久松潜一、西郷信綱、丸山真男、松本三之介、吉川幸次郎、小林秀雄、相良亨、…といった時代を代表する論客たちが、めいめいの店を優雅、ユニークな論陣を展開している。もういっぽうの棟では、宣長の生涯をたどりつつ、『排蘆小船』『紫文要領』『石上私淑言』といった初期の文学論・和歌論、『直毘霊』との理論的な出会いはじめ、おそれが国で、宣長がいて論じられた主な仕事が網羅的に掲げられている。今後、本居宣長について何か論じ始めたい場合、大いに重宝するはずだ。

さて、なぜいま、宣長なのか。

熊野氏は高校三年の頃、宣長関連の書物を読みふけったのだそうだ。そして、相当だが、西欧哲学の領域における研究を重ねれば重ねるほど、日本の和作の準備のいわば原点にもあたる、本居宣長その人に対する興味が、ふつふつと湧いてきたのではないか。熊野氏は眠り立てたこの鉱脈には、理があると思う。

宣長の『古事記伝』は、単純を意味を先行論理と仕て論述し、科学的で合理的な方法により、『古事記』のテキストを解読した世界の金字塔である。人びとはこの仕事をみて、神道はなるほど日本固有の国の体系だと納得し、国学に信頼を寄せた。だが、近代国家、彼は機関を創造した。そうである。宣長一人の人格に、実証的な哲学的合理主義と徹底な自国中心主義とが同居している。この矛盾をどう理解すればよいか。西欧哲学を日本思想の流れとクロスさせれば、新しい知の地平が生まれるだろう。そうした希望の表明と毛筆である。

熊野氏の本書の文体は、だから、やわらかい。本来はいかみ合う事の論争点の主張を、誰にも見入れすぎず、好意的に紹介していく。そして出しゃばらない。とんがった新味を打ち出すのでもない。代わりに熊野氏は、ショッピング・モールのオーナーのように、ひと切すつそれなりの出番をつくっていく。すると読者は、さあ、これからあなたの出番もありますよ、と声をかけられたみたいな気持ちになる。

ポストモダンがかつて、もてはやされた。フーコーの知の考古学を洋日された。古典主義時代の／科学の時代の、エピステーメー（知の枠組み）。そうした発想が、果敢の議論を組織するのだとすれば、日本のブレ近代（江戸時代）をかたちづくっている要素にも、注目すべきではないか。フーコーの仕事を追いかけて論じるのもよし、巨分の視野を進行する作業をすべきなのだ。熊野氏の『本居宣長』は、そういう問題の礼儀を作業である。

本居宣長は、国学を大い流れにおき、和漢外新を流れ下って、皇国史観という物語を生み出した。それを乗って、宣長から日を遡って来たのは偶然ではない。宣長は、江戸の幕末期を明治時代につくり変えた。ナショナリズムの運動の源でもある。この系譜をきっちり押さえないと、日本の近代を考えることはできない。読者もまたまた本居宣長を導き出発を出発しているところなので、熊野氏の仕事に勇気づけられた。

本書の価値は、西欧哲学を専門とする熊野氏が、その対話に位置する異質性である本居宣長に胸心を向けていること。そして、宣長の仕事には、世界に向けて普遍性を導する広い内容がある、と示していること。西欧と出会う以前の日本思想（儒文や和文で書かれている）を、西欧のポストモダンと肩を並べる水準で論じ切れば、この即の議論は新しいステージに飛躍できるだろう。

対極にある思想家に関心向ける

味を打ち出すのでもない。代わりに熊野氏は、ショッピング・モールのオーナーのように、ひと切すつそれなりの出番をつくっていく。すると読者は、さあ、これからあなたの出番もありますよ、と声をかけられたみたいな気持ちになる。

ポストモダンがかつて、もてはやされた。フーコーの知の考古学を洋日されて。古典主義時代の／科学の時代の、エピステーメー（知の枠組み）。そうした発想が、果敢の議論を組織するのだとすれば、日本のブレ近代（江戸時代）をかたちづくっている要素にも、注目すべきではないか。フーコーの仕事を追いかけて論じるのもよし、巨分の視野を進行する作業をすべきなのだ。熊野氏の『本居宣長』は、そういう問題の礼儀を作業である。

本居宣長は、国学を大い流れにおき、和漢外新を流れ下って、皇国史観という物語を生み出した。それを乗って、宣長から日を遡って来たのは偶然ではない。宣長は、江戸の幕末期を明治時代につくり変えた。ナショナリズムの運動の源でもある。この系譜をきっちり押さえないと、日本の近代を考えることはできない。読者もまたまた本居宣長を導き出発を出発しているところなので、熊野氏の仕事に勇気づけられた。

本書の価値は、西欧哲学を専門とする熊野氏が、その対話に位置する異質性である本居宣長に胸心を向けていること。そして、宣長の仕事には、世界に向けて普遍性を導する広い内容がある、と示していること。西欧と出会う以前の日本思想（儒文や和文で書かれている）を、西欧のポストモダンと肩を並べる水準で論じ切れば、この即の議論は新しいステージに飛躍できるだろう。

四畳半から東証一部上場へ

クロスメディア・パブリッシング・1500円

著者 木地 英雄さん

スマートフォンのカメラ機能やデジタルカメラの心臓部「イメージセンサー」の検査用光源装置で世界トップシェアを誇るインターアクション（横浜市港北区）の創業者である著者が、起業から東証一部上場を果たすまでの経緯をつづった一冊だ。

18歳の時に父親が亡くなり、大学進学を諦めた。アルバイトでためた資金でフランスに1年近く住むことにした後、23歳で光学系企業に就職する。「この会社で仕事の仕方をいろいろ学んだ。十年一領を磨く」というが、ここでの15年間で自分の剣を磨くことができた」

バブル崩壊直後の1992年、会社を辞めて独立。妻の実家にあったトタン屋根ぶきの四畳半の部屋にオフィスを構える。

ところが、かつての取引先にあいさつに行ったものの、ほとんど相手にされない日々が続く。「相手は大手企業の研究所などで、勝手しく仕事を出すとはいってくれない」。そこで、従来の取引先とは違うアメリカや韓国など海外メーカーに営業をかけて懸命に仕事を受注するようになる。

順調に成長し、2001年にマザーズ上場を果たしたが、直後に社長を退任し、大手企業出身者を社長に据えた。しかし、経営を任せようとしたことで、社内の統制が崩れ大混乱に陥る。見るに見かねた社外取締役の一人から「会社に戻れ」と懇願されて、社長に復帰する。「会社を始めたのは誰でもない。人生は短くてはいけない。理性経営に終わの始まり。人間は引いてはいけない。次のステップに進むにしても、前へ前へ進むべきだ」と語る。

現在の企業理念は「カスタマーファースト」。「儲ける会社と年を残る会社の違いは何か。答え詰めると『人のためになるかどうか』。人の役に立たないものは淘汰される。常に世の中に役立つものを提供できれば、世の中は生かしてくれる」

これから起業を目指す人へのアドバイスを聞いた。「これだけは負けないというものを持つこと。世の中の役に立ち、なおかつビジネスとして収益を上げられるのかを考えながら戦略を組み立てて挑戦してほしい。そして、最後まで諦めないことが終を抜く方法である」

文・写真 山田敦雄

人の役に立てば生かされる

ドイツ職人紀行

池内紀著（白水社・2376円）

ドイツでは職人が大事にされる。現代にあっても昔ながらの職人組織が健在で、業界が独自で「近代のエンジニアと違って古くからの職人たちを受け継がれている。

ドイツ文学者の著者は職人好きで彼の国を旅すると、町々の職人たちの店や工房を訪ね歩く。

石工、煙突、組紐、皮革師、教会のオルガン修理、被覆師……さまざまな職人が紹介される。数ひきの職人はきりがに消えているようだが、かつて職人いまた健在。

驚くのは、「男はつらいよ」のフーテンの前のような書生がドイツにもいることで、街頭で口上を述べ、「がらくた」を売る。品物は乗っても使用はきみ。著者撮影のミュンヘンの書生の写真も入っている。数百年の伝統を持つ協会という。

とりわけ驚もいる。オーケストラのバイオリン弾きなど、演奏の時に本人の楽しみを出来演奏する。

書店、古書店の店主も本の知識が豊富な職人。出版社にはレクトゥーアという職人もいる。原稿が出版に値するかどうか審査する読み屋。

さまざまな職人が紹介されていき楽しい。職人は職人魂。職人がドイツ社会を支えている。（川）

封印された殉教 上・下

佐々木宏人著（ワニブレス・各2160円）

敗戦3日後の1945年8月18日、横浜市内の教会でカトリック教徒区長だった白田勝平神父（当時77歳）が撲殺された。カトリックの世界でも知る人はわずかで、一部には死に目さえ教えて伝えられていた。本書は、77歳の元新聞記者が未解決事件を約10年かけて綿り解こうとした重厚なドキュメントである。

著者は当時の教会幹部が「敵」の名のもとに、犯人の過去に潜伏的な関係を取ってきたことに疑問を持ち、手掛かりを証言を求めて日本中を旅する。その過程で「犬死に」は無駄な人だった」と死者にムチ打つ言葉を吐く聖職者の存在を知る。一方で、この事件に目を向け、後世に残そうとしてきたのは、一部の外国人神父だけだったことに気づく。

著者は事実に向けて点と点をつないで線にする作業を続けるが、地に足は付いてしまう。捜査・司法当局が公文書、事件・裁判記録を残していないことである。それは、戦中から学ぶことのできないこの国の体質を表しているようだ。

その意味で、73年前の事件から学び上がるものは、今日の民主主義のあるのかもしれない。（貫）

昨日読んだ文庫

『新海一圓』（岩波文庫・品切れ）だ彼の時・今北井川による信長と伝説の一冊を設いた書であるが、著文読み下しと、解説のみで、書が立たない本書問題を抑えた。

10月、紀伊國屋による本書の解説書『弾海一圓講話』が岩波文庫に入り、平田宗と知る。

『新海一圓』は、「この3冊」の本と正則さんは翻訳の加藤文雄秋義師。彼の時・今北井川は信・仏という大なる思想の一冊を設き、彼は講演との対面、宗教の感まで、幅た人である。講演スケールも大きい。アレクサンダー大王、ソクラテス、ナポレオンと自分の引用に感銘を受かれる。

ふと、はじめて聞いた文章を思い出した。中学時代、先生に頼まれて探した『啄木歌集』（岩波文庫）だった。教師から引き渡され、郷里和歌山県太田町の国語教師を経て上京に移住し新聞となった現在は、岩波で啄木を説明している。しかもロシア革命の神さまターが通い、自宅には神棚に出入りしていた母が教えてくれた。啄木歌が蘇生して22年、神と現実と支配者と。さまざまな縁がつながり自分かりの手間であった気ろう。解説・横田庸雄氏は「岩波文庫のあることは世の幸である」と語っている。

今北井川は信・仏という大なる思想の一冊を設き、彼は講演との対面、宗教の感まで、幅た人である。講演スケールも大きい。アレクサンダー大王、ソクラテス、ナポレオンと自分の引用に感銘を受かれる。

ふと、はじめて聞いた文章を思い出した。中学時代、先生に頼まれて探した『啄木歌集』（岩波文庫）だった。教師から引き渡され、郷里和歌山県太田町の国語教師を経て上京に移住し新聞となった現在は、岩波で啄木を説明している。しかもロシア革命の神さまターが通い、自宅には神棚に出入りしていた母が教えてくれた。啄木歌が蘇生して22年、神と現実と支配者と。さまざまな縁がつながり自分かりの手間であった気ろう。解説・横田庸雄氏は「岩波文庫のあることは世の幸である」と語っている。

（横田庸雄氏研究センター準教授）

MAGAZINE

SWITCH 11月号（スイッチ・パブリッシング・1080円）

鉄腕アトムの最後の場面をご存知ですか。二〇三五年、地球はロボットに支配されつつあった。女性の前から姿を消すジュリーが姿を消す。やがて、しと泣き崩れた彼女と文太は言葉を失い、人は愛しどうだが、人間がロボットたちの最世物として育てられたことを知り、ロボット解放軍に襲撃されていたアトムを救出する。二人をかばって出撃するアトムの前にロボット軍団が現る。さらにジュリーもロボットだったのだ。厳しく悲しい物語だ。

一九七〇年代の漫画の連載。でも、ゲルマン民族を許せなくなったロボーマ人、皇国民の移民・難民に悩む欧米諸国とどこか通じる。ロボットという異民族にどう立ち向かうか。21世紀の重大事でもある。（澤）

今週の執筆者

「この3冊」の本と正則さんは翻訳の加藤文雄秋義師。彼の時・今北井川は信・仏という大なる思想の一冊を設き、彼は講演との対面、宗教の感まで、幅た人である。講演スケールも大きい。アレクサンダー大王、ソクラテス、ナポレオンと自分の引用に感銘を受かれる。

ふと、はじめて聞いた文章を思い出した。中学時代、先生に頼まれて探した『啄木歌集』（岩波文庫）だった。教師から引き渡され、郷里和歌山県太田町の国語教師を経て上京に移住し新聞となった現在は、岩波で啄木を説明している。しかもロシア革命の神さまターが通い、自宅には神棚に出入りしていた母が教えてくれた。啄木歌が蘇生して22年、神と現実と支配者と。さまざまな縁がつながり自分かりの手間であった気ろう。解説・横田庸雄氏は「岩波文庫のあることは世の幸である」と語っている。

（横田庸雄氏研究センター準教授）

おかげさまで22周年 日本僑報社 11月出版案内

http://jp.duan.jp/ 〒171-0021 豊島区雑司が谷3-13-15 Tel 03-5956-2808 Fax 5956-2808 E-mail info@duan.jp

関口知宏著
「ことづくりの国」日本へ
そのための喜怒哀楽世界地図
今回の旅 怒 日本の哀 楽
1833円

大ヒット 新装版
「ことづくりの国」日本へ
関口知宏

「ものづくり」から「ことづくり」へ
鉄道の旅で知られる著者が
世界を旅してわかった
日本の目指すべき指針とは？
イラスト・本並文学会で関口氏オリジナル

ガイドブックに載っていない観光地
中国の〝穴場〟めぐり
日中新聞学会編 2500円
宮本雄二 特別寄稿
関口知宏 日本との違いをさがしの旅

最優秀賞・中国大使賞
原 麻由美（清華大学留学生）

一等賞
中関 命美
三本 美和
相曽 圭
瀬野 清水
田中 弘美

二等賞
浦井 智司
青木 玲奈
浅井 稔
佐藤 彩乃
秋山 ひな子
大友 実香
大岡 令奈
吉田 怜菜
星出 遼平
坂本 正次

三等賞
小浦 牧治 郷 佐 酒 中 小 黒 浜 金 桑 太 堀 中 古 白 山 佐 大 長 石 清
林 道 野 岬 田 藤 浜 浦 原 川 磨 井 山 北 田 道 田 赤 本 藤 石 谷 川 田 巻 美 奇 子
兼 建 宏 哲 裕 王 威 の 学 桑 み 道 佐 美 鈴 野 津 原 羽 英 裕 勝 力 ひ と み 奈 花 珍 子
太 太 子 五 一 子 悦 り 子 る 子

中国人の日本語作文コンクール受賞作品集刊行記念
「中国の若者が見つけた日本の新しい魅力」を語る
見た・聞いた・感じた・書いた、新鮮ニッポン！
作文コンクール受賞者を囲む交流会
11月24日(土) 14:00～16:30 南池袋
申し込み http://duan.jp/1124.htm

朝日新聞・NHKラジオ深夜便などで紹介
大岡信 愛の詩集
戦後日本を代表する詩人の愛を謳歌する珠玉集
大型版 陣内孝則・日中対訳 2376円
DVD一枚収録 朗読CD付
朗読 陣内孝則・宮島咲子
解説 「木馬」大岡かな子

シルクロード 中国の歴史
新編 世界文化遺産図鑑
中国の世界遺産・王朝都城
本田敏子訳 1800円

忘れられない中国滞在エピソード 受賞者
心と心つないだ餃子
伊佐達一・小島麻美ほか人共著 陣内孝則 編
福田康夫 元首相 推薦!!
とくに次世代を担う若者たちに、国境を超えた真のふれあいを伝える本書を強く推薦いたします！

忘れられない 日中対訳
中国留学エピソード
中国留学生活平成
山田敏一、西田真ほか45人著
2625円

11月22日 中国大使館にて表彰式開催!!